

令和7年3月18日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が2月下旬～3月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (2月下旬～3月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	イネミズゾウムシ	やや少	2月畦畔0.25㎡土壌中成虫数 : やや少【0.09頭/1.08頭】(-)	19
	ヒメトビウンカ	やや少	2月畦畔3㎡吸い取り成幼虫数 : やや少【0.21頭/2.21頭】(-)	21
	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	並	冬季気温(12月～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値): 並	19
冬春トマト	うどんこ病	やや少	発病株率: やや少【0.00%/1.68%】(-) 気象予報: 日照時間並	30
	オンシツコナジラミ	やや多	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ): 並【0.00%/0.16%】 成虫寄生株率(タバココナジラミ): 並【0.00%/0.16%】	33
	タバココナジラミ	やや多	2月黄色粘着トラップ誘殺数: やや多【1.32頭/0.64頭】(+) 気象予報: 気温並・日照時間並	33
春キャベツ	菌核病	やや少	発病株率: やや少【0.00%/1.60%】(-) 気象予報: 気温並・降水量並	36
	アブラムシ類	多	成幼虫寄生株率: 多【42.4%/1.28%】(+) 気象予報: 気温並・降水量並	37

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (2月下旬～3月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【1.60%/1.41%】 気象予報：日照時間並	42
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生株率：並【4.80%/3.13%】 2月黄色粘着トラップ誘殺数：やや少【0.77頭/4.96頭】（－） 気象予報：気温並・日照時間並	44
	アザミウマ類	やや多	成幼虫寄生株率：やや多【4.00%/1.11%】（＋） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：並【3.01頭/5.92頭】 気象予報：気温並・日照時間並	44
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【17.60%/28.72%】 気象予報：気温並・日照時間並	45
施設野菜共通	灰色かび病	やや少	発病株率（冬春トマト）：やや少【0.00%/3.12%】（－） "（イチゴ）：やや少【0.00%/2.58%】（－） 気象予報：気温並・降水量並・日照時間並	-
ナシ	黒星病	並	罹病芽率：少【0.08%/1.27%】（－） 秋型病斑発病葉率：多【3.21%/1.63%】（＋） 気象予報：降水量並	24
ビワ	果樹カメムシ類	並	チャバネアオカメムシ早期発生予測モデルによる発生量： 中程度	28
カーネーション	アザミウマ類	少	被害株率：少【0.00%/9.06%】（－） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：少【0.00頭/2.34頭】（－） 気象予報：気温並・日照時間並	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/0.64%】 気象予報：気温並・日照時間並	-
野菜・花き共通	コナガ	やや多	2月フェロモントラップ誘殺数：多【0.29頭/0.16頭】（＋） 10株当たり寄生幼虫蛹数（春キャベツ）： やや少【0.00頭/0.19頭】（－） 被害株率（施設ストック）：やや多【4.00%/2.34%】（＋） 被害株率（露地ストック）：やや少【1.60%/12.59%】（－） 気象予報：気温並・降水量並	45

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

(1) ヒメトビウンカ（イネ）

[令和6年度病害虫発生予報第11号P4「その他情報」も参照する。](#)



(2) スクミリンゴガイ（イネ）

[令和6年度病害虫発生予報第6号P3「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



(3) コナジラミ類（冬春トマト）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。](#)



(4) 灰色かび病（施設野菜共通）

[令和6年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



(5) 黒星病（ナシ）

[令和6年度病害虫発生予報第10号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



(6) 果樹カメムシ類（ビワ）

[令和6年度病害虫発生予報第6号P5「Ⅲその他の情報」も参照する。](#)



II その他の情報

イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査の結果

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、発病すると治療することはできない。本病は生育初期に感染すると、葉身が脱色したように淡黄緑色に変色し（写真1）、こより状に巻いて垂れ下がる「ゆうれい症状」を呈し（写真2）、茎数が減少する。一方、生育中期に感染すると、穂が「出すくみ」症状を示して白穂を生じ（写真3）、穂数が減少する。一般に、生育初期に感染すると減収被害が大きくなる。

本ウイルスは経卵伝染し、次世代もウイルスを獲得するため、ヒメトビウンカの越冬世代幼虫の保毒虫率が高いと、次作の発生が増加する傾向がある。

そこで、常発地の10地点について、昨年11月の越冬世代幼虫の保毒虫率と本年2月中下旬のイネ科雑草地における越冬虫数を調査したところ、保毒虫率が5%※¹を上回る地点は確認されず、3㎡あたりの捕獲虫数は香取市森戸、東庄町笹川を除き0頭であった（表）。

本県では、県北部を中心に、本病が毎年発生しているが、大きな被害は生じていない。しかし、発生が懸念される地域では、次作もほ場をよく観察し、発病株が多い場合は、ひこばえ（2番穂）の早期すきこみ等、収穫後の耕種的防除を行い、越冬虫数及び保毒虫率を下げる対策を実施する。

※¹ 他県では保毒虫率5%以上、または10%以上を要防除水準としている。



写真1 葉の変色



写真2 ゆうれい症状



写真3 穂の出すくみ

表 イネ縞葉枯病常発地における昨年11月のヒメトビウンカ越冬世代幼虫の保毒虫率及び本年2月中下旬のイネ科雑草地における3㎡あたりの捕獲虫数

地域	保毒虫率 (%)	イネ科雑草地における捕獲虫数 (頭/3㎡)		
		本年値	平年値	順位
野田市船形	4.35	0	0.63	4-8位/8年
柏市新利根	0.00	0	0.50	3-8位/8年
流山市前ヶ崎	3.26	0	3.43	2-7位/7年
我孫子市下ヶ戸	0.00	1	1.25	3位/8年
我孫子市浅間前	0.00	0	0.13	2-8位/8年
印西市酒直ト杭	0.00	0	0.38	4-8位/8年
神崎町小松	3.26	0	2.38	6-8位/8年
香取市森戸	1.09	9	4.86	2位/7年
東庄町笹川	0.00	0	1.13	2-8位/8年
横芝光町新井	1.09	0	1.63	3-8位/8年

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：3月上旬、果樹：2月、花き：2月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.09	1.08	0.01	
	イネゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.10	0.18	0.12	
	イネクロカメムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.00	0.06	0.01	
	ヒメトビウンカ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	0.21	2.21	4.74	
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	0.03	1.54	2.23	
冬春トマト (長生、海匠)	萎凋症	萎凋株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	1.68	0.00	
	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	3.12	0.80	
	〃	果実発病度	0.00	0.21	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	モザイク病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	0.20	0.13	0.10	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.16	1.20	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	0.00	1.60	0.00	
	黒腐病	発病度	0.20	0.12	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	42.40	1.28	3.20	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.19	0.00	
	イチゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病	発病株率(%)	1.60	1.41	0.75
〃		発病果率(%)	0.05	0.12	0.00	
灰色かび病		発病株率(%)	0.00	2.58	0.00	
〃		発病果率(%)	0.02	0.32	0.00	
アブラムシ類		成幼虫寄生株率(%)	4.80	3.13	6.75	
〃		黄色粘着トラップ誘殺数	0.77	4.96	1.76	
ハスモンヨトウ		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
アザミウマ類		成幼虫寄生株率(%)	4.00	1.11	0.75	
〃		黄色粘着トラップ誘殺数	3.01	5.92	6.54	
ナシ（県内全域）	黒星病（秋型病斑）	発病葉率(%)	3.21	1.63	2.74	前年10月調査
	黒星病	罹病芽率(%)	0.08	1.27	0.14	
	輪紋病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	卵越冬ハダニ類	産卵数	0.00	0.45	0.00	
	ナシチビガ	越冬蛹数	0.00	0.01	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋症	発症株率(%)	0.80	0.44	0.80	
	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.88	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	0.26	0.00	
	アザミウマ類	被害株率(%)	0.00	9.06	8.80	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	2.34	3.00	
	ヨトウムシ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
ストック (安房)	ハダニ類	成虫寄生株率(%)	0.00	0.64	0.00	
	コナガ（施設）	被害株率(%)	4.00	2.34	6.40	
	〃	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.36	3.20	
	コナガ（露地）	被害株率(%)	1.60	12.59	2.40	
	〃	幼虫寄生株率(%)	0.00	1.15	0.00	
	アブラムシ類（施設）	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
アブラムシ類（露地）	成幼虫寄生株率(%)	2.40	1.23	0.00		

*黄色粘着トラップ誘殺数：438cm²の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

トラップ月間誘殺数（2月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.29	0.16	0.16	頭/日

○気象予報

3月13日気象庁発表

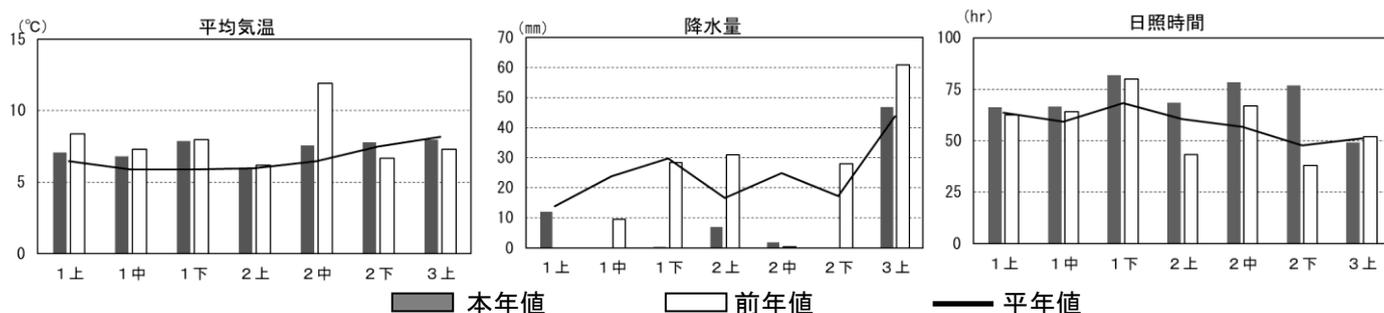
関東甲信地方における向こう1か月の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月の各気象要素の平年値
(3月15日～4月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.7	11.5	12.0
降水量(mm)	115.7	144.0	166.2
日照時間(hr)	175.0	179.3	174.9



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は4月16日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp